

## 平成 24 年度議会報告会（第 1 回）記録書

開催日時：平成 24 年 5 月 13 日（日）14:00～16:00

場 所：生涯学習センター 研修室 1・2

来場者数：53 人

配布資料：議会だより(No184)、岩倉市議会議員政治倫理条例、アンケート  
総務・産業建設常任委員会資料（まちづくりについての報告）  
厚生・文教常任委員会資料（人づくり～子育て・健康・生きがい～）

出席議員：全員(15 人)

### 1 報告会

#### (1) 開会の言葉（須藤議長）

#### (2) 報告事項

##### ① 議会改革について（横江議会改革特別委員長）

議会基本条例の検証結果報告・議会議員政治倫理条例の概要説明・災害時の対応（災害発生時等の活動要綱の制定等）

#### (3) 質疑応答

問) 昨年議会報告会で行政視察のあり方について質問したが、回答は「議会改革特別委員会で取り組んでいる」とのことであったが、具体的な提案として反映されているのか。

答) 総務・産業建設常任委員会では、北海道の滝川市を行政視察し、12 月定例会で暴力団排除条例について質問をしている。また、会派でも、秦野市と藤沢市の公共施設白書について調査し、3 月定例会で公共施設の維持修繕・更新について質問をしている。

問) 政治倫理条例について、議員は資産についての誓約書とかチェックリスト的なものを前もって出すべきではないか。また、第 13 条に(1)から(5)までの処分があるが、どういふ場合に該当するのか、犯罪を犯した場合はどうなるのか、市民が判断できるような判断基準を明確にするべきではないのか。

答) 資産報告について、国会議員、国会議員、首長は資産を報告している。市長の場合、条例を制定して資産を報告している。かつて議会も報告してはどうかとの議論はあったが、合意を得られなかったと聞いている。今後の課題と考える。刑法上、有罪となる場合は当然、辞職勧告が行われてしかるべきと考える。政治倫理審査会は公開を原則として審議し結論を出す、その結論が生半可なものとなれば、今度は我々が責任を負うという責任感を持って、審査会を開いていく考えである。

問) 議長の 1 年交代が慣例であると聞くが、一番良い人を選んで任期を通して就任することも議会改革ではないのか。

答) 議長人事については申し合わせにより 1 年交代となっている。昨年 12 月 1 日現在、全国の 5 万人未満の市では、複数年度の議長は 78.8%であるとの全国市議会議長会の統計調査があり、すぐには反映できないが、少なくとも次の改選以降には取り組んでいく必要があると考える。

問) 議会だよりにより議案や請願に対する各議員の態度が○×で出ているが、なぜ反対するのか、反対理由のコメントを付けてほしい。

答) 通常の議会であれば、賛否の理由と内容について、議会だよりに掲載されるが、臨時議会の場合、紙面が限られているので、掲載できない事情がある。例として、人事院勧告の場合、国の人勧が出されると同時に、愛知県や名古屋市の人事委員会の勧告が出される。愛知県で言えば、民間の方が上回っているとの勧告であったこともあり、地域に一番近いところの判断に従うべきではないかとの考えで反対したものである。議会だよりは紙面が限られるので、昨年 9 月の定例会から本会議をインターネットで録画中継している。また、本会議については議事録を作成し、図書館、市役所、議会事務局に置いてあるので見ていただければと思う。

## 2 分科会

### 第 1 分科会 (総務・産業建設常任委員会)

テーマ:「まちづくり」

参加者: 24 人

#### (1) テーマについて趣旨等の説明 (伊藤総務・産業建設常任委員長)

テーマの趣旨説明・平成 24 年度予算のうち「まちづくりの基本目標と施策」に関連する主な事業の紹介

#### (2) 意見交換

##### ① 市民活動助成金事業について

市民: 市民活動助成金事業、まちかどチャレンジステーション事業、PR 看板設置事業、これらは関連する事業であるが、方向がバラバラであると思う。現在、市民活動助成金事業に申請をしているが、5 万円の助成金に対しパソコンの変換ソフトが必要となる。また、助成金申請はパワーポイントで説明することになっているが、そのソフトが 1 万 8 千円である。申請を簡単な方法に、そして助成額を大きくして欲しい。

市民: 市民活動団体の定義が曖昧である。どこまでの活動が認められるのか。

委員: 要綱があるので、行政課に問合せをしてください。

##### ② まちかどチャレンジステーション事業について

市民: まちかどチャレンジステーション事業は、1,298 千円の予算に対し家賃が毎月 10 万円であるが、何のために借りたのか、全く分からない。「人の駅」を継続してもよかったのではないか。

市民: 「人の駅」をなぜ止めてしまったのか。まちづくりに効果がなかったのかあったのか。お金があれば継続したいという意味だったが、請願が不採択となった。観光振興事業では雇用対応として 14,900 千円の予算だが、これを「人の駅」に張り付ければ継続できるのではないか。3 年間の「人の駅」の評価を聞きたい。

市民: 市民活動助成金事業に金を積みば、十分市民活動ができる。「人の駅」はやりたいけど、金がないのでという行政と議会の判断で、まちかどチャレンジステーション事業になったのか。それとも効果がなかったということか。

委員: 「人の駅」については、継続を臨む市民の声は聞いているが、補助事業であることから継続性が難しいこと、責任を持って担う人がいないことで、まちかどチャレン

ジステーション事業として、その場所をより使いやすいように名前を変えて行っている。市民プラザを窓口とし、市民が利用する場所として桜まつりからスタートしている。

市民：まちかどチャレンジステーションは誰が管理しているのか。利用するにはどこへ行けばいいのか。

委員：市民プラザが窓口なので、そこで団体登録をして利用する。担当は企画財政課である。

### ③ 観光振興について

市民：観光振興事業について、地域資源をどう考えているのか。岩倉の地域資源をいくつか挙げて欲しい。観光が岩倉にとっていいことだと思わない。国からの補助金事業は継続事業にならない。「人の駅」と全く同じではないか。観光は継続性がないとダメである。一宮市で観光戦略事業を行ってきた。予算が付き、行政や議会が協力的で結構な成績となったが、継続性がなくて終了となった。どういう方向で、どういう形で市民団体に関わるのかがはっきりしないと断片的なものとなる。

市民：観光振興事業として 14,900 千円の予算だが、これは全国に旅行に行きながら PR することなのか。

委員：一宮市では 138 マスコットキャラクター、犬山市では犬の名前のキャラクター、小牧市ではコマッキーなど近隣ではマスコットキャラクターで PR している。岩倉の PR をどうしていくのかについては、今までは漠然として活動してきたという反省から、マスコットキャラクター「い〜わくん」をゆるキャラの全国的ネットワークに登録し、キャラクターを通じて、岩倉特産の野菜などの情報を提供し、岩倉の認知度を上げていくために予算が付けられている。

市民：岩倉のイメージをあげるためには、ホームページのトップに「い〜わくん」を持っていき、市民が自由に「い〜わくん」を使って PR できるようにしたり、シールを作成するソフトを付けて、パソコンで簡単にシール印刷ができるようにすれば、市の予算を使わなくてもかなり PR できると思う。

委員：「い〜わくん」はフェイスブックにページができており、情報をアップすると、多くの人に今までと違った形で観光資源などの情報を発信でき、新しい形の観光振興となる。観光振興事業を受託する会社が「い〜わくん」のぬいぐるみを持って、保育園や幼稚園などへ出向くこととなる。

市民：議会はぬいぐるみを使って観光振興を行うことを OK したということか。来年はどうするのか。ゆるキャラについて、短期計画ではどうしているのか。

委員：ゆるキャラは一般質問の中で提案し、我が市も取り組もうということになったもので、ゆるキャラが当たれば、岩倉は全国的人気になる可能性はある。継続性については震災等緊急雇用対応事業のメニューが限られており、そのメニューの中から行政が選定したものである。

市民：キャラクターを作るなどして売る資源が必要である。五条川の桜だけでは 10 日間しか持たない。

委員：桜まつりからふれ愛まつりまでの間、盆踊りしかない。岩倉は「鯉のぼりのまち」

と言われているが、のんびり洗いは有名でも、鯉のぼりは見かけないし、五条川にもかかっていない。桜まつりから盆踊りまでの間に観光資源としての鯉のぼりを使つての仕掛けが必要なのではないかと提案していきたい。

委員：「人の駅」に関する請願でも、委員会でかなり議論をしたが、観光的なものまでは当局とのコンセンサスが議員の中で出来ていない状況である。今後、議論をしていく。

市民：震災等緊急雇用対応事業とあるが、観光に使うお金なのか。一般論で言うと震災関連に使うものと思う。観光振興より災害対策としてハード、ソフト面に使うものではないか。

委員：観光振興事業を受託する会社が震災関連で雇用して事業を行うことが震災等緊急雇用対応事業の目的である。

市民：どういうものを岩倉の観光資源として考えているのか。

委員：桜まつり、夏まつり、ふれ愛まつりに来ていただいて、商工業者等が「岩倉にはこういうお店がある」などと発信し、再度来ていただく。また、保育園や児童館があり、「子育てのしやすいまち」だということを知ってもらい、岩倉にもっと目を向けてもらうためにイベントは必要だが、イベントだけでなく、地域につながるよう、継続的に岩倉のいろいろな資源を観光資源として活用することが必要と思う。

委員：名所、旧跡だけが観光資源ではない。観光資源は創れば良いと思う。例えば、桜まつり来場者に自然生態園を紹介するとか地域の人材を発掘するなど。市民、市民団体、行政、議会が情報を持ち寄って、将来の岩倉を観光資源あふれるまちにしていこうという議論が必要と思う。

市民：観光資源としての三つのまつりに来てもらっても、費用対効果ではどうなのか。

委員：他市町のイベントで、例えば、名古屋城から清須城までという清須市の美濃路ウォークでは少しずつ買い物をしていただける仕掛けとなっている。岩倉でも岩倉街道があるから、名古屋城から岩倉まで歩こうというイベントを仕掛けないと、新しい観光は出てこないのでは、発想を変えることが必要と思う。

#### ④ 安心・安全のまちづくりについて

市民：通学路の旗当番をしていて感じたことだが、狭い道路を抜け道として通行する車両があり、危ないと思った。警察が立つとか一時的に通行規制をすとかの抑止力がないと、広い道路への誘導はできない。通学路のカラー舗装化だけでなく、親が安心できる具体策を考えて欲しい。

委員：通学路のカラー舗装は2ヵ年で終える。また、ゆうわ会の人がスクールガードとして見守りを自主的に行っている。意見は課題として考えていく。

市民：車を入れない方法、抜け道に入る車を止めるなど思い切ったことをしないと危ないのではないか。

委員：地元の要望として出してもらえればと思う。

市民：地の人間でないので、こういう場をお願いしている。

市民：命のことは最優先に考えないでどうするのか。区から上げての話は本末転倒で、逆に区長に相談すれば良い。

## ⑤ その他

市民： 地元の人が地元の施設に来れるような形で巡回バスを運営し、それによって賑わいを取り戻すこと、他所からどんどん来てくださいますとも無理だと思う。地元の人がくるくる回って、つながりを深めていくことはいいことだと思う。こういった中で、もっと議論すべきではないかと考える。

市民： 4月1日現在の人口が48,000人を切り、人口が減っている。なぜ人口が減っているのか。市民は観光より人口を増やすことを思っている。14,900千円を使って全国にPRに行くより、例えば、岩倉独自で、新規に住民登録する人に水道料金の基本料金を無料にするとかの方がPRになるのではないかと考える。その方が人口が増えるのではないかと考える。

委員： 人口はピーク時に比べ減少している。何の策もないと減少していく。人口の減少を食い止めるためには、まちの魅力を高め、ある程度流入する住民層のターゲットを絞った政策を、例えば、子育てをしやすいまちとして、共働きの若い世代を呼び込むことも必要と考える。

市民： 市民が市内のどこかに行くための、どの道路を通るといいのかというマニュアル的なものとかマップとかを作れないものか。市外から来た人にもPRできると思う。

委員： まちかどチャレンジステーションでは案内マップを、ホームページでは地図を見られるような体制になっているが、今の意見は課題の一つとして受け止める。

市民： 議会は少数の意見を拾うためにあると思うが、その意見を跳ね返すようなことは止めて欲しい。行政側が定期的に各地区を回って、市民が行政に言うべき場を設けるよう議会からプッシュして欲しい。市民の言葉が届かないことが問題である。

市民： ふれあいトークは新聞に載っていたので、会場一杯の参加者になるかなと思ったが、空席が目立つ。議員が支持者を集めてはどうか。

委員： 今後の課題として検討する。

市民： 日程の設定ですが、曜日や時間帯を検討して欲しい。

委員： こういう場とか議会での傍聴とかの機会があるので、ぜひ議会の傍聴をお願いします。

市民： 仕事に行っているので、傍聴にいけない。DVDを作って借りれるようにして欲しい。

市民： 要望 ①前回の議会報告会での質問や意見に対し、回答のほとんどが「取り組む」となっているが、本来、質問に対しては口頭でいいから報告をして欲しい。

②まちかどチャレンジステーションは、いつでも人を置いて開いている状態にして欲しい。

③神明ふれあい広場を作っていただいたが、使えるよう整備して欲しい。

市民： テーマの「まちづくり」の中で、安全・安心であることが重要である。今の幹部交番の体制で、防犯を含めてできるのか。観光も大事だが、資料の中に「安全・安心」に関わるが入っていない。一番に来るべき課題と思う。

## ⑥ まとめ（伊藤総務・産業建設常任委員長）

本日の懇談会では、市民活動、観光、道路、防犯の問題など様々な意見や要望をいた

だいたいで、今後の課題として受け止める。今後も議会報告会を通して、いろいろな報告をさせていただいたり、皆さんの意見等をお聞きしたいのでよろしく願います。

## 第2分科会（厚生・文教常任委員会）

テーマ：「人づくり～子育て・健康・生きがい～」

参加者：19人

### (1) テーマについて趣旨等の説明（梶谷厚生・文教常任委員長）

テーマの趣旨説明・平成24年度予算のうち「子育て」「健康」「高齢者」に関連する主な事業の紹介

### (2) 意見交換

#### ① 南部老人憩いの家について

市民：南部老人憩いの家の大広間を畳からフローリングに改修するのはステッキを使用したり、車椅子で入りやすくするためか

委員：大広間は、足の悪い人が増えて椅子の方が座りやすく楽であるという声があった。車椅子で入りやすいということもある。

市民：感覚的には、畳の方がなじむと思う。畳のままソファをおいてあるが、基本的に車椅子で入れないから改修するのか。

委員：設計に当たっては、利用者の希望を聞いて変更されたので、詳細を知るには、老人会や利用者聞いてもらいたい。

委員：畳のへりでつまづく、ひっかかることもあり、介護の面からフローリングが良いとしている。

#### ② 子育て支援センター（市民プラザ）のエレベーターについて

市民：子育て支援センターにおいてエレベーターを設置したが、公共施設にはエレベーターがなくてはならないのか疑問である。エレベーターは費用も多額である。市民プラザでもあり、スタッフが常駐しており、助けてもらえば済むのではないか。不特定多数が行くわけではなく、どれだけの人が必要としているのか疑問である。

委員：利用のほとんどは乳児の関係。今までベビーカーで1階まで来て、抱っこして2階に上がるという現状であった。施設そのものを1階に設置することも検討したが、構造上できなかった。抱っこして上がるのであれば、エレベーターが必要ではないかという意見が議会の中でもあった。人を介在する方法もあるかもしれないが、エレベーターは必要という議論になった。

委員：双子の子など子どもを一度に何人も上げられないという意見もあった。

委員：介助して上がるのも一つの方法であるが、健常者ばかりでなく、身体障害者も利用する。視察に行くと、今の施設は、エレベーターがついているのがほとんどである。健常者も障害者も親であり、どちらの方も便利になるようつけていくことを意見した。

市民：私の周りでは、エレベーターが欲しいという意見は出ていないし、施設に不満もなかった。ママ友ができれば助け合いながらやっていけることであると考えていた。

市民：健常者から見れば必要ないと思うし、そうはいつでも障害者もいる。無駄な税金をつかったと思ったが、障害者にとってはありがたいということなので私は平等なもので

あると理解している。

### ③ 健康増進について

#### 《保健センター》

市民：保健センターにおいて水曜と木曜日に歩け歩けというものがある。これは7年目ぐらいになっているが、市は歩け歩けというだけで、完走してもなにもない。一度市が記念品を出したようにも聞いている。保健センターが健康増進に力を入れているのであれば行政も少しはお金を入れてその方面に力を注いでほしい。歩く時には、暑いときの水分補給やインフルエンザは流行っているなど、健康に関する助言を与えてくれる保健師さんは、ありがたいと思っている。行政の後押しをお願いしたい。

市民：歩け歩けについてスポンサーを探してタオルやハンカチでも何か渡せると良いと思う。

#### 《神明ふれあい広場について》

市民：4月1日号の広報で、神明ふれあい広場が完成したからご利用下さいと出ているが、利用できる状況でないと思う。子どもたちもつまずいて転ぶ。6月議会があるが、臨時費用を使ってでもきれいにしてもらいたい。また、以前は簡易トイレがついていた。今までどおり設置してもらえればとも思うが、整地するためになくなったならそれでもいい。とにかくウソの報告は良くない。早急に整備してもらいたい。

委員：この件は、12月議会に予算をつけて、利用規定については3月議会の中で作っている。6月議会を待たず、明日にでも工事の状況を確認し、理由があれば明確に説明してもらおうようにする。

### ④ 福祉分野のサービス基準・満足度について

市民：子育て・健康といったサービス基準は、近隣の市町と比べてどのくらいの段階にあるのか。こういったものは、予算をつぎ込めば限りなくつぎ込める。しかし予算上の観点からいくと自ずと限度がある。バランスが大事。例えば5段階で1とか2だと上げなければならない。4、5にいつてるのならば、他のものを優先してもらいたい。

委員：高齢化率は、愛知県全体でみると岩倉市はまだ5歳ぐらい平均より下がっている。子育て、老人福祉の関係で5段階で言えば4ぐらいかと思う。朝日新聞が出している住みやすさの調査でいくと、県内では3より低いぐらい、国内全体でみると4より少し上ぐらい。経済力相当と捉えている。細かい数値は捉えていない。

委員：子育ての基準指標として、例えば子ども医療費がある。岩倉市は中学生まで無料になったということで愛知県の平均に達した。去年ぐらいまでは、県内6-7割ぐらいが中学生卒業までになっていたもので、そういった意味では大きな成果である。一方、健康診断で見ると、ほとんどの近隣市町では、医療機関で受診できるが、岩倉では保健センター1箇所である。市の面積の問題もあるが、かかりやすさという点では、検討の余地があると思う。個々の政策を見ていかなければならないが、全体的には平均にきていると思う。

市民：数字の満足度しか出なかったのは不満である。子どもの医療費助成がどうなったというのは、私のママさん達の間ではあまり関係ない。子育てのしやすさの目安は、市役

所が近い、公園がたくさんある、子どもと遊べる場所、生涯学習センターの子どもルームや市民プラザ、保育園のつどいの広場、そういったものが沢山あって岩倉市は子育てしやすいねという意見はある。満足度は高い。医療費とか、そういうことで満たされていないということを感じとってほしい。

委員：環境については議会内で議論しており、そういった点ももちろん考慮して取り組んでいる。

市民：通勤族のママ達も岩倉市は住みやすい。コンパクトで良いという意見はある。

市民：高齢者の要望は多いと思う。こうしてここにも多く集まっている。子育て中の方は、立場は弱く、子育て精一杯で報告会に来るのも一苦勞で、意見も出す余裕もないと思う。高齢者が健やかに楽しく生きていくことも大切。でも子ども、若い人が生き生き働き、学ぶという社会をつくるのが一番大切である。厚生文教委員会にはそのことをお願いしたい。また、不登校生徒は多いと思う。くすのきの家に相談に来ていると思うが、不登校生徒でありながら相談にいけない子がいるのではないかと心配。学校には子どもの数が減って空き教室があると思うが、お年寄りやさくらの家があり、子どもと高齢者が離れてしまっているのではないかと心配。子育て中のお母さんから、悩んでいる子どもを救えるのは高齢者であると思う。そういう社会をつくってほしい。

#### ⑤ 国民健康保険税について

市民：国民健康保険税が岩倉市は高い。一般会計から繰入れしているからか、名古屋市は低い。岩倉ではなぜそれをやらないのか。

委員：名古屋市と岩倉市では計算方法の違いがあり、名古屋市は所得割と均等割があるが、岩倉市の場合は所得割、資産割、均等割、世帯割で土地を持っているだけでかかってくる。

市民：それは名古屋ベースに改められないものか。

市民：良いところの施策は真似ればよい。

委員：会社員の立場で言うと、国民健康保険税は安く、サービスが良いに越したことはないが、一般会計から繰り入れるということは税金である。ある会社では、後期高齢と国民健康保険の拠出金は、5億円位出している。つまり給料から天引きされて、税金として出されている部分が国民健康保険に充当されている。足りないからといって極端な話全部補填する、出せばよいということでは賛成しがたい。安くて、手厚いサービスは良いが、土地を持っているなどの住民の住んでいるベースを考え、バランスを取りながら行っていかなければならない。

委員：土地を持っていても、所得がなく、国保が高いという高齢者も多く、一人当たり4,200円から7,700円に繰入額を増やした。

委員：愛知県の平均から見るとまだ少ない。

#### ⑥ 高齢者見守りについて

市民：見守り隊は結構予算のかからない、生活に密着しているシステムで、岩倉団地で行われているが、プライバシーを侵害しないことを考慮して持っていくと良いシステムになるので期待している。



市民：高齢者の一人暮らしと高齢者の見守りについて、行政は防衛しているのか。民生委員が単独でやっているが大変だと思う。新聞や牛乳配達を利用して、他市では取り組んでいるとも聞く。岩倉では今のところ孤独死はないと思うがどうか。

委員：岩倉市も孤独死はある。岩倉の場合は、民生委員だけでなく、モデル事業として、南新町や岩倉団地では住民が取り組んでいる。

市民：私の班でも一人暮らしが 2 軒ある。行政に頼ることばかりでなく隣組で何とかしようと思ってもいる。できるだけ落ち度が無いように、行政の指導をお願いする。

委員：登録しているのは少ないが、新聞店の協力はお願いしている。

市民：孤独死が出たら岩倉の恥である。

委員：お金がない分だけ、みんなで知恵を集め議論はしている。我々 15 人だけでは、こぼれるところもあるので、これはいいぞという意見はどんどん言ってほしい。取り入れて進めていきたい。

委員：単純に家賃が安いからといって岩倉に引っ越してきた一人暮らしの方もいる。転入の際に、区の役員などに状況を把握してもらうようにはお願いしている所もある。

市民：高齢者については、一番大事なのは、ご近所の皆様の支え合いだと思う。自分の家の周りだけでも良いので、一人一人がそういう認識を持って、高齢者を見守っていくべきだと思う。高齢者になればなるほど、気をつけていてもいろいろ起こる。向こう三軒両隣の感覚を持たないと高齢者問題は難しい。

委員：個人情報の関係では、民生委員に頼らざるを得ないことになると思うが、その中でいかに横の繋がりをつくるかを制度ではなく、皆さんに理解してもらう。行政がお金をかけなくてもやっていかなければならないのは事実であると思うので、職員が少なくなる、市民が少なくなる中で、いかに市民の中のネットワークを我々も含めて行政が取りまとめ、情報を平等に流していくかということもこれからも考えていきたい。

#### ⑦ 議会報告会について

市民：資料の作り方について、これは単なる結果報告を表しているのか。委員会でどういったことを審議して、何を決めたのかが書いてあるのか、ただ委員会で話題になったことが書いてあるのか。どういったまとめ方の資料か。

委員：委員会で議題になったこと、市からの提案や市民からの請願などいろんな形で出てきたものがあるが、今年度予算化されたものとして羅列した資料である。

市民：高齢者の見守り、負担増の箇所は何が言いたいのか分からない。確かに制度が変わるから負担が増えることは分かる。だから委員会でどうするのかといったことなのか、問題点なのか、やったことなのかバラバラで分かりにくい。

市民：決算議会で指摘して、こう変わって、24 年度はこういう予算が付いたなど、もう少し丁寧な、数値的なものも記載してはどうか。肺炎球菌ワクチンは初めて予算が付いたのだから、何人ぐらい受けたのか、受診者が少なければ問題点はなんだったのかとか、議会はチェック機構だからそういう中身のある報告会になるよう資料も変えて欲しい。

市民：議員の意見は、行政の責任が大半である。行政の関係では広報広聴の人が議会報告会に来るべきだと思う。ガラス張りにするにも行政の力を借りないといけないと思う。

市民：これで終わらないでほしい。良いものにするには10年15年かかる。出席したくてもできない人もいる。知らない人にも周知させる方法を考えて欲しい。

市民：会を重ねるごとに良いものにして下さい。

⑧ 市政懇談会について

市民：今、市政懇談会はあるのか。

市民：部長や助役が出席していて、直接意見をぶつけることができ良かった。

委員：完全に止めたわけではない。行政からいつ、どこでやるという方式から、市民からいつ、どこでやるから来いというタウンミーティングのスタイルに変わっている。

市民：やっているところも偏っている。同じところが2-3回やっている。やっていないところは取りまとめる人がいないのかもしれない。

⑨ その他

市民：市役所の職員で岩倉市在住の方がどれ位か。

委員：50%いかないぐらい。3割ぐらいかもしれない。

(その後確認したところ、約4割でした。)

市民：よその街から通っていて、岩倉の街をよくしようなんて思わないのではないか。

委員：災害時のことも含め、採用についても考えていかなければならない。結婚して外へ出るということもある。

市民：市の所有物でも命名権で売ることも考えてはどうか。結構稼げるのではないか。歩け歩けの景品ぐらい稼げるのではないか。

市民：市民プラザの登録は団体登録3名以上だが、1人でも登録できるようにすると思う。3名ぐらいすぐ集まると思うかもしれないが、今、名前と住所を教えるのを嫌がる。一人でも登録できるようにすると、きめ細かい活動も行われると思う。

市民：ホームページを見ようとしても、市役所1階にあるものは、恐ろしく遅い。昔の回線のままなのか。見たくても見れない。忍耐を要するので、その点は改善をして欲しい。

市民：昨日、がん検診の書類が届いた。その中に入っていた無料のクーポン券は、検診に行った方がいいですかということか。

委員：5歳刻みで、国から無料クーポン券が来る。そういう方は、無料で受けられるので是非その機会に受けることが大事。

⑩ まとめ（相原厚生・文教常任副委員長）

皆様から出された意見、質問については今般だいたい回答させていただいた。今回2回目であるが、この議会報告会の報告として、「議会だより」や「ホームページ」に回答を含め掲載していく。

以上。